

# 自立活動学びづくり案

福山市立霞小学校

- 1 日時 2025 年（令和 7 年）10 月 31 日（金）
- 2 学年 自閉症・情緒障害特別支援学級 2 組  
（第 2 学年 3 名、第 4 学年 4 名、第 6 学年 1 名） 計 8 名
- 3 題材名 伝える・わかり合うってたのしい～すきな本クイズでつながろう～
- 4 本時の学習活動  
人間関係の形成 3－（１）（３）（４） コミュニケーション 6－（２）（５）

## 5 題材について

### （１） 児童観

本学級には、3 学年にわたる 8 名の児童が在籍している。学級全体では、集団でのやり取りに対して不安や抵抗感は少なく、他者との交流にも比較的積極的に取り組んでいる。しかし、他者の話を聞き取って理解したり、相手の気持ちを想像したりすることに難しさがある児童も多く、一方的に主張を伝えるだけにとどまる場面もみられる。

本学級における自立活動「人間関係の形成」や「コミュニケーション」に関する児童の実態は以下のとおりである。

第 2 学年の A 児は、他者意識をもって会話をすることができている。しかし、自分と他者の「できる・できない」を比較して否定的に受け取ってしまう場面が見られる。B 児は、過去の失敗を想起してしまい、学習に意欲的に取り組めない場合がある。一方で、他者の立場に立って物事を考える姿が見られ、共感的な関わりができる。C 児は、集団で活動する際には、説明を聞き漏らしたり、最後まで聞かなかったりするために、ルールを十分に理解しないで遊ぶ場合がある。

第 4 学年の D 児は、他者からの働き掛けを受け止めることに課題が見られる。E 児は、相手の気持ちを想像した適切な表現の方法が十分には身に付いておらず、思ったことをそのまま口にしてしまうことがある。F 児は、他者と円滑に会話を進めることができるが、取り組んだことのない活動には消極的になる場面がある。G 児は、自分の考えを持ち、それを他者に伝えることができるが、相手の意見を受け止めることに課題がある。

第 6 学年の H 児は、比較的どのような活動にも前向きに取り組むことができているが、話の内容をまとめながら聞くことに課題がある。

### （２） 題材観

本題材は、学習指導要領「自立活動」における、3（１）「他者との関わり基礎に関すること」（３）「自己の理解と行動の調整に関すること」（４）「集団への参加の基礎に関すること」6（１）「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」を主な柱としている。

本題材では、「好きな本」という児童にとって身近で親しみやすい題材を扱うことで、日常的に関心をもっていることから他者との関わりを生み出し、やりとりを通して関係性を築く力を育てていくことをねらいとしている。「好きな本」について語ることは、児童の興味・関心が反映されやすく、主体的に言葉を発しやすい。また、本の内容を通して自分の思いや経験を投影したり、共感したりすることで、自分自身について考えるきっかけとなり、自己理解を深めると同時に、他者理解へとつなげていくことができる。

活動の中心に据えた「好きな本クイズ」は、自分の選んだ本に関するヒントを出すことで他者につながり、ヒントを受け取った側がその意味をくみ取り、問い直しながら答えを探るという双方向的な関わりを生み出す。特に、チームで協力して答えを導くという構成をとることで、個と個の対話だけでなく、グループ内での意見交換や協同的な活動が自然と生まれるように工夫している。

このような活動は、人と関わることを楽しみにしている児童にとっては、自分の思いを安心して表現し、他者に伝える喜びを味わう場となる。一方で、人との関わりに苦手さをもつ児童にとっても、「本」という媒介を通すことで直接的なやりとりの負担を軽減し、間接的・安全なかたちで自己を表出できる手段となる。好きな本という共通のテーマをもとにやりとりをすることで、対話のきっかけが生まれやすくなり、言葉のキャッチボールを通して自然と他者との関わりを広げていくことが期待できる。

### (3) 指導観

自立活動における指導は、児童一人ひとりの特性や発達段階を的確にとらえ、それぞれの課題に応じた支援を通して、「できた」「わかった」「つながれた」といった実感を積み重ねることが何より重要である。特に、本学級の児童は、対人関係における不安や言語的表現の難しさを抱えながらも、他者と関わりたいという内的な意欲を有しており、その思いを丁寧にすくい取る支援が求められる。

第2学年のA児においては、他者との違いを肯定的に捉えられるよう、「みんなちがっていいね」「○○さんらしさが出ているね」といった肯定的なフィードバックを意識的に行う。B児においては、事前に簡単なゲームゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせた状態で授業に参加できるようにする。C児においては、活動の流れやルールを視覚的に示したり、めあての確認を繰り返し行ったりすることで、活動への見通しをもたせる。

第4学年D児においては、他者とのやりとりに入るきっかけがもてるように、グループ内での対話を促す問いかけや、仲介的な支援を行う。E児においては、言葉の使い方に気付けるよう、「こんな言い方もあるよ」といった具体的な表現例を示しながら、言い換えを一緒に考える。F児においては、活動の各段階にかかる時間をあらかじめ知らせ、全体の構成を意識して取り組めるようにする。G児においては、相手の話を受け止める経験を促すために、「○○さんはどう思っているかな？」と相手の考えに目を向けさせる声かけを行う。

第6学年H児においては、聞いた内容を誰かに伝える場面を設けて、「聞いて覚えること」の目的を明確化する。

活動の構成においては、情報の整理・比較・伝達といった認知的スキルを段階的に支援しながら、児童が安心して発言・聴取・反応できるような環境設定と関わり方を大切にすることが指導者の役割である。指導者として、児童の内にある「伝えたい」「つながりたい」という思いを信じ、それを丁寧に引き出し、肯定的に受け止める姿勢を持ち続けながら、児童が自分らしく他者と関われる力を育てていく。

ことを大切にしたい。

学校図書館の活用においては、図書を単なる読書の対象とするのではなく、「出会い」「探究」「発信」を生み出す教材として位置づけ、児童の主体的な学びを支える手立てとして活用する。児童が自分の「好きな本」を選ぶプロセスで図書に親しむ中で、自分の興味や関心、感じたことを言葉にする力を育てる。また、友達の好きな本を知り、興味をもった図書を読んでみるという他者との関わりも、図書を介して生まれる。そうした本との関わりを通して、児童が他者の思いや考えに触れ、読書への関心をさらに高めていくことを目指す。

## 6 本題材の目標

- 友達の「好きな本」や発言に関心をもち、相手の思いや考えを聞き取ることができる。
- 言葉ややりとりを通して、「伝える・わかり合う」経験を積み、自分や他者への理解を深めることができる。

## 7 指導の計画（全3時間）

次	時	学習活動案	学校図書館活用のポイント	全体の目標
一	1	○他者との交流活動の準備として、「好きな本」について考える。 ・導入ゲームを行う。（○×クイズや「すきな○」紹介） ・教員が好きな本を紹介する。（見本としてのモデリング） ・児童自身の「すきな本」を考える。 ・ワークシートに「タイトル・あらすじ・すきな理由」を絵やことばで記入する。	・児童が自分の好きな本を「図書館から自分で選ぶ」経験をつむ。  ・司書教諭や担任が児童の選書をサポートし、「その子らしい1冊」を見つける。	・友達の「好きな本」や発言に関心をもち、相手の思いや考えを聞き取ることができる。
	2	○ブックトークの内容を考える。		
二	3 本時	○4人1組グループで、もう一つのグループメンバーの「誰がどの本を好きなのか」を当てる活動行う。 ・4人1組でグループをつくる。 ・自分が選んだ本についてヒントを出す。 ・相手チーム4名が選んだ本を誰がどの本を好きなのか当てるためにグループ内で話し合う。（相手チームに質問できる時間も設ける。） ・正解を発表し、ブックトークを行う。	・前時に選んだ本を手元に置き、実物を見ながらクイズを実施する。 ・本を通じて他者を理解する経験を作る。	・言葉ややりとりを通して、「伝える・わかり合う」経験を積み、自分や他者への理解を深めることができる。

## 8 本時の目標

### (1) 全体の目標

相手の「好きな本」をヒントと照らし合わせて考え、推測する中で、他者への関心や思考を深めることができる。

### (2) 個別の目標

児童	目標
A児 (第2学年)	話合い活動の中で、他者との違いを肯定的に受け止めながらやりとりを楽しむことができる。
B児 (第2学年)	クイズやブックトークの活動において、自分の思いを相手に伝えようとする意欲をもって取り組むことができる。
C児 (第2学年)	活動のルールや説明を最後まで聞き、流れを理解した上で、自分の役割を果たそうとすることができる。
D児 (第4学年)	グループ活動の中で、他者の発言や働きかけに耳を傾け、やりとりに参加しようとする気持ちをもつことができる。
E児 (第4学年)	友達に対して配慮した言葉で話すことを意識しながら、自分の好きな本を伝えようとするすることができる。
F児 (第4学年)	グループ活動に自信をもって参加し、他者と協力しながらクイズに取り組むことができる。
G児 (第4学年)	自分の考えを伝えるだけでなく、相手の意見や質問を聞き、受け止めようとする姿勢をもつことができる。
H児 (第6学年)	他者の説明やヒントを聞きながら、大事な内容を意識して聞き取ることができる。

### (3) 本時の展開

本時の学習展開	○教師の支援◆評価規準															
学習活動	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児	H児								
1 はじめのあいさつをして、学習のめあてと今日の学習内容を知る。	<div>○今日の活動で何をするのかホワイトボードに書き、学習の流れやめあてを明確にする。</div> <div>めあて：グループで友達が好きな本について話し合い、友達のことをよく知ろう。</div>															
2 学習の流れを確認し、見通しをもつ。	<div>○活動のねらいや流れを全体で確認してから活動を行う。 (①好きな本について1つヒントを出す。→②4人1組のグループに分かれて相手チームのメンバーの誰がどの本なのか話しあう。→③相手チームに質問をする。→④結果を確認する。→⑤自分が好きな本についてブックトークを行う。) ○活動の流れを黒板に掲示し、今自分達が何をしているかが分かるように視覚化する。</div> <table><tr><td>○比較ではなく「自分らしさ」に目を向けさせる言葉選びをする。</td><td>○事前に簡単なゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせる。</td><td>○活動にスムーズに入れるよう、同じ構造のゲームを事前に行い、見通しをもたせておく。</td><td>○活動の流れを理解できるよう、事前に簡単なゲームを通して体験させ、見通しをもたせる。</td><td>○安心して取り組めるよう、活動の流れや内容について不明点を確認し、理解を深める。</td><td>○活動の各段階にかける時間をあらかじめ知らせ、全体の構成を意識して取り組めるようにする。</td><td>○事前に簡単なゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせておく。</td><td>○全体を見ながら、活動を円滑に進めよう声をかける。</td></tr></table>								○比較ではなく「自分らしさ」に目を向けさせる言葉選びをする。	○事前に簡単なゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせる。	○活動にスムーズに入れるよう、同じ構造のゲームを事前に行い、見通しをもたせておく。	○活動の流れを理解できるよう、事前に簡単なゲームを通して体験させ、見通しをもたせる。	○安心して取り組めるよう、活動の流れや内容について不明点を確認し、理解を深める。	○活動の各段階にかける時間をあらかじめ知らせ、全体の構成を意識して取り組めるようにする。	○事前に簡単なゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせておく。	○全体を見ながら、活動を円滑に進めよう声をかける。
○比較ではなく「自分らしさ」に目を向けさせる言葉選びをする。	○事前に簡単なゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせる。	○活動にスムーズに入れるよう、同じ構造のゲームを事前に行い、見通しをもたせておく。	○活動の流れを理解できるよう、事前に簡単なゲームを通して体験させ、見通しをもたせる。	○安心して取り組めるよう、活動の流れや内容について不明点を確認し、理解を深める。	○活動の各段階にかける時間をあらかじめ知らせ、全体の構成を意識して取り組めるようにする。	○事前に簡単なゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせておく。	○全体を見ながら、活動を円滑に進めよう声をかける。									
3 自分のめあてを立てる。	○各児童のめあてを全体で共有し、板書することで、活動中にめあてを振り返ることができるようにする。															
4 本時の活動を行う。 ①好きな本について1つヒントを出す。	<div>○ヒントカードを事前に準備しておく。</div> <div>深く考える仕かけ</div>															
②4人1組のグループに分かれて相手チームのメンバーの誰がどの本なのか話し合う。	<div>○グループで使える、話し合いカード(本の名前・顔写真が移動できるようにしたカード)を用意しておき、グループ内で交流が深まるようにしておく。</div> <table><tr><td>○他者の発言に共感しやすいように、「○○さんの好きなところ、どう思った？」などの投げかけを通して、違いへの前向きな視点を促す。</td><td>○成功体験を積み重ねるように、「伝わったよ」「分かりやすかったよ」とフィードバックをすぐに行う。</td><td>○めあてを意識して取り組めるように活動中にめあての確認を定期的に行う。</td><td>○教師が間に入り、「今の○○くんの考え、どう思う？」と問いかけを仲介する。</td><td>○話し合いで自分の意見の主張だけにしないよう、教師が間に入り、声をかける。</td><td>○活動のねらいから外れないように、どうしても思ったのか、考えも伝え合うことを再確認する。</td><td>○グループ内で互いの意見が尊重し合っているか確認し、声をかける。</td><td>○聞いた内容が誰かに伝える場面を設けて、「聞いて覚えること」の目的を明確化する。</td></tr></table>								○他者の発言に共感しやすいように、「○○さんの好きなところ、どう思った？」などの投げかけを通して、違いへの前向きな視点を促す。	○成功体験を積み重ねるように、「伝わったよ」「分かりやすかったよ」とフィードバックをすぐに行う。	○めあてを意識して取り組めるように活動中にめあての確認を定期的に行う。	○教師が間に入り、「今の○○くんの考え、どう思う？」と問いかけを仲介する。	○話し合いで自分の意見の主張だけにしないよう、教師が間に入り、声をかける。	○活動のねらいから外れないように、どうしても思ったのか、考えも伝え合うことを再確認する。	○グループ内で互いの意見が尊重し合っているか確認し、声をかける。	○聞いた内容が誰かに伝える場面を設けて、「聞いて覚えること」の目的を明確化する。
○他者の発言に共感しやすいように、「○○さんの好きなところ、どう思った？」などの投げかけを通して、違いへの前向きな視点を促す。	○成功体験を積み重ねるように、「伝わったよ」「分かりやすかったよ」とフィードバックをすぐに行う。	○めあてを意識して取り組めるように活動中にめあての確認を定期的に行う。	○教師が間に入り、「今の○○くんの考え、どう思う？」と問いかけを仲介する。	○話し合いで自分の意見の主張だけにしないよう、教師が間に入り、声をかける。	○活動のねらいから外れないように、どうしても思ったのか、考えも伝え合うことを再確認する。	○グループ内で互いの意見が尊重し合っているか確認し、声をかける。	○聞いた内容が誰かに伝える場面を設けて、「聞いて覚えること」の目的を明確化する。									
<div>学校図書館利用のポイント</div> <div>○絵や表紙、内容から、友達の好きな本を推測できるように実物の本を用意する。</div>																
	◆友達の発言を聞き、自分の考えを伝えるやりとりができています。	◆クイズやブックトークで、自分の思いを積極的に相手に伝えられている。	◆活動のルールや説明を理解し、役割を果たしながらグループ活動に参加できている。	◆友達の発言を聞き取り、相手に応答するやりとりを行っている。	◆友達に配慮した言葉を意識して使いながら、自分の好きな本を伝えている。	◆自信をもってグループ活動に参加し、他者と協力してクイズに取り組んでいる。	◆自分の考えを伝えるだけでなく、相手の意見や質問を受け止めながら活動できている。	◆友達の説明やヒントから大事な情報を聞き取り、それをもとに話し合いを進めている。								
③相手チームに質問をする。 ④結果を確認する。  ⑤自分が好きな本についてブックトークを行う。	<div>◆友達の「好きな本」や発言に関心を持ち、相手の思いや考えを聞き取ろうとしているか。 ◆言葉ややりとりを通して、「伝える・わかり合う」経験を積み、自分や他者への理解を深めているか。</div> <div>○グループで話し合い、誰にどんな質問をすればよいか整理して発表できるようにする。(ワークシート)</div> <div>○めあてに戻り、結果よりグループでの話し合い活動での児童の様子を評価する。</div> <div>○事前にブックトークの練習をしておき、安心して発表できるようにしておく。 ○聞き手に、「○○さんの好きなところどんなところだった。」と聞き返し理解を促す。</div> <div>表現方法の指導</div>															
5 ふりかえりをする。 カード→全体共有	<div>○今日の活動で新しく見つけたポイントや、友達の良かった所をみんなで共有し友達と一緒に学び合うことの良さを考える。 ○「誰の本を読んでみたいと思った？」と振り返りの視点を与える。</div>															

9 板書計画

めあて：グループで友達が好きな本について話し合い、友達のことを良く知ろう。

めあて

今日の活動

- ①それぞれのめあてを考える。
- ②好きな本について1つヒントを出す。
- ③4人1組のグループに分かれて相手チームのメンバーの誰がどの本なのか話し合う。
- ④相手チームにしつもんをする。
- ⑤結果を確認する。
- ⑤自分が好きな本についてブックトークを行う。
- ⑥ふりかえりをする。

活動のルール

- ・グループ全員で意見を出し合ってきめる。
- ・話している人がいる時は静かにきく。

ふり返り

- ・〇〇さんが紹介した〇〇を読みたいと思った。
- ・クイズでは、みんなで協力して考えるのが楽しかったです。友達のヒントが分かりやすかったです。